

世界市場が混乱するなか、安全性を証明した異色のロシア・クレジットファンド

デンホルム・ホールが運用するロシア・クレジット(担保付貸付)ファンドは、世界市場が混乱するなかで安定的かつ高リターンの運用商品を求める投資家にとって、安全な避難先であることを証明した。ロシア企業向け短期貸付に的を絞ったヘッジファンドとして6年前に登場して以来、70カ月連続で投資家に利益をもたらしている。

発行来のリターンは約20%

運用総額が4億ドルまで達してきたのは、ロシア経済の成長と歩みをともにすることができたからだ。経済成長に伴い、ロシア全土の企業による資金需要はますます増加している。ジョージ・ニアニラス氏(写真)が創立したデンホルム・ホールは、モスクワとロンドンに計35人のスタッフを置き、ロシアの12の時間帯すべてをカバーしながら、自社デールのオリジネーションに携わる。

一部のヘッジファンドが投資家に損失を与えているなかで、デンホルム・ホールの場合、ロシア民間企業向け短期貸付のみを運用対象とする「B株」と、ロシア企業向け貸付とロシア上場株式の双方に投資する「A株」の2008年2月の見積りリターンは、それぞれ1.75%と1.15%と好調だった。2002年6月の発行時に投資した投資家は年率約20%のリターンを得てきた。

「ロシア以外の国はこれまでの金融緩和時代のツケを払っているが、ロシア国内の新築住宅や近代医療センター、さらには世界的水準のレジャー施設への需要が衰退することはない。ロシアは過去の金融危機から教訓を学んでおり、融資先選びは極めて慎重である」。ニアニラス氏はこう話している。

デンホルム・ホールが設立されたのは1990年代半ばで、当初は、ロシアに進出する外国企業やロシア地方自治体のアドバイザーを務めていた。この間にロシア内外の顧客のためにアドバイザーとして関わったデールは総額100億ドルを超える。顧客にはモスクワ市も含まれている。この実績のおかげで、デンホルム・ホールはロシア全土で有力なコンタクト先を開拓する一方で、内外投資家の10年間の運用実績も

把握できるようになった。

未発達な金融制度が収益の源泉

世界最大の石油とガスの輸出国であるロシアの経済急成長は10年目に入った。外貨準備高は1998年の123億ドルから今では5,000億ドルに膨らみ、中国と日本に次ぐ規模を誇る。

3月に行われた大統領選挙後のロシア情勢の行方について、ニアニラス氏は、「70%の得票率で圧勝したドミトリー・メドベージェフ氏が現行路線を維持するはずだ。プーチン氏が首相、メドベージェフ氏が大統領になる新体制で、ロシアの経済成長は続く」と予想する。

経済急成長は続いているものの、ロシアの多くの中小企業には国内にある約1,100行の金融機関から資金を借りることは困難である。国有銀行が全資産の半分以上を抑えているので、企業融資の大半は国策プロジェクトや国が優先する会社に回されてしまう。

■デンホルム・ホールの実績比較

B株の相対パフォーマンス
2003年9月を100として指数化



